



# ストレッチ クラスタ アップグレード

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [HyperFlex 補助ノードの HX データ プラットフォーム ソフトウェア バージョン \(2 ページ\)](#)
- [HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード \(2 ページ\)](#)
- [監視 VM のアップグレード \(4 ページ\)](#)

## 概要

このセクションでは、Cisco HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレードに関連する情報を提供します。ストレッチ クラスタアップグレードを実行する手順は、通常のHyperFlexクラスタアップグレード手順と似ています。

## ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン

- HX Data Platform の分割アップグレードのみがサポートされています。UCS ファームウェアのアップグレードはサポートされていません。
- 手動クラスタ ブートストラップは、3.5 より前のリリースから 3.5(1a) へのアップグレードに必要です。  
自動ブートストラップは、3.5(1a) からそれ以降のリリースへのアップグレードでサポートされています。
- HyperFlex Witness ノードバージョン 1.0.2 は、3.5(1a) 以降のリリースからサポートされています。拡張クラスタを 3.5(1a) 以降のリリースにアップグレードする場合、HyperFlex Witness ノードのアップグレードは不要です。
- Hypercheck ヘルス チェック ユーティリティ: アップグレードする前に、Hypercheck クラスタでこの予防的ヘルス チェック ユーティリティを実行することを推奨します。これらのチェックにより、注意が必要なエリアがすぐに見やすくなり、シームレスなアップグレードエクスペリエンスを保証します。Hypercheck のインストールと実行方法の完全な手順

の詳細については、『HyperFlex 健全性および事前アップグレードチェック ツール』を参照してください。

## HyperFlex 補助ノードの HX データ プラットフォーム ソフトウェア バージョン

HyperFlex リリース	補助ノードのバージョン
3.5 (2h)	1.0.8
3.5 (2g)	1.0.6 以降
3.5(2f)	1.0.6 以降
3.5(2e)	1.0.4
3.5 (2d)	1.0.3
3.5 (2c)	リリースの延期
3.5 (2b)	1.0.3
3.5(2a)	1.0.3
3.5(1a) - サポートされていない	1.0.2



(注) Cisco HyperFlex リリース 3.5 (2f) では、ストレッチ クラスタで監視 VM をバージョン 1.0.6 以降にアップグレードする必要があります。監視 VM のアップグレード方法の詳細については、「[監視 VM のアップグレード](#)」を参照してください。



(注) 旧バージョンの VM は、最新の HXDP バージョンにクラスタがアップグレードされるとサポートされます。

## HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード

HyperFlex をストレッチ クラスタ現在の HX Data Platform バージョンの 3.0(1x) 以降のリリースからアップグレードする場合は、次の手順に従ってください。



- (注) アップグレードされているノードの電源障害またはリブートによって HyperFlex パッケージの更新が中断された場合は、システムの状態に応じて問題を修正するために、コントローラ VM を再イメージ化するか、手動による介入が必要です。詳細については、Cisco TAC にお問い合わせください。

#### 始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。詳細については、「」を参照してください。
- [\[Software Download\]](#) から、既存のクラスタを以前のリリースからアップグレードするための最新の *Cisco HX Data Platform Upgrade Bundle* をダウンロードします。
- 「オンラインアップグレードプロセスのワークフロー」の手順 1 ~ 6 を実行します。詳細については、を参照してください。
  - Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
  - ブートストラップを実行して、Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。
  - ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。
- DRS が有効な場合、VM は自動的に vMotion を持つ他のホストに移行されます。



- (注) DRS が有効になっており、ノードの VM が vMotion とともに移行されない場合、ノード上のすべての VM は自動的にシャットダウンされます。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** HX Connect にログインします。

- a) ブラウザに HX ストレージクラスタ管理 IP アドレスを入力します。  
*Https://<storage-cluster-management-ip>* に移動します。
- b) 管理ユーザ名とパスワードを入力します。
- c) [ログイン (Login)] をクリックします。

**ステップ 2** ナビゲーション ペインで、[Upgrade] を選択します。

**ステップ 3** [Select Upgrade Type] ページで [HX Data Platform] を選択し、次のフィールドの値を入力します。

UI 要素	基本情報
Drag the HX file here or click to browse	「 <a href="#">Download Software - HyperFlex HX Data Platform</a> 」から、前の release.tgz を使用した既存のクラスタをアップグレードするための Cisco HyperFlex Data Platform アップグレードバンドルの最新パッケージ ファイルをアップロードします。 サンプル ファイル名の形式: <i>storfs-packages-3.5.2 a-31601. .tgz</i> .
現在のバージョン	現在の HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。
Current cluster details	HyperFlex クラスタの詳細 [ <b>HyperFlex version</b> ] および [ <b>Cluster upgrade state</b> ] がリストされます。
Bundle version	アップロードされた HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。
(任意) [Checksum] フィールド	MD5 チェックサム の値は、アップグレードパッケージがダウンロードされた場所と同じ /tmp ディレクトリにある別個のテキスト ファイルに保管されています。  このオプション ステップは、アップロードされたアップグレードパッケージバンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

ステップ 4 vCenter クレデンシャル を入力します。

UI 要素	基本情報
[User Name] フィールド	vCenter <admin> ユーザ名を入力します。
[Admin Password] フィールド	vCenter <admin> パスワードを入力します。

ステップ 5 **[Upgrade]** をクリックして、クラスタ アップグレード プロセスを開始します。

ステップ 6 **[Upgrade Progress]** ページの **[Validation Screen]** に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。アップグレードが完了したことを確認します。

## 監視 VM のアップグレード

始める前に

- HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード
- アップグレードされた HyperFlex ストレッチ クラスタは正常な状態である必要があります。アップグレード後にストレッチ クラスタのヘルス状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
root@StCtlVM:~# stcli cluster info | grep healthy
```

## 手順

- ステップ 1** SSH を使用して監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

- ステップ 2** /usr/share/exhibitor/ パスで使用可能な exhibitor ファイルを、exhibitor.properties ファイルを取得できるリモートマシンにコピーします。

```
scp root@<Witness-VM-IP>:/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties  
user@<Remote-Machine>:/directory/exhibitor.properties
```

- ステップ 3** 監視 VM からログアウトします。電源をオフにして、監視 VM の名前を WitnessVM.old に変更します。

(注) ping コマンドを使用して、古い監視 VM の IP アドレスが到達不能であることを確認します。

- ステップ 4** 新しい監視 VM を展開し、古い監視 VM と同じ IP アドレスを設定します。

(注) IP アドレスに到達できない場合、監視 OVA の導入には /var/run/network ディレクトリ内の古いエントリが含まれている可能性があります。これらのエントリを手動で削除し、VM を再起動して、割り当てられた IP アドレスがネットワーク上で到達可能になるようにする必要があります。

VM をリブートするには、vCenter/vSphere で VM コンソールを開き、次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/run/network/*  
reboot
```

- ステップ 5** SSH を使用して新しい監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

- ステップ 6** Exhibitor ファイルをリモートマシン (ステップ 2 でコピー) から新しい監視 VM の /usr/share/exhibitor/ パスにコピーします。

```
scp /directory/exhibitor.properties root@<Witness-VM-IP>:  
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
```

- ステップ 7** 次のシンボリック リンクが新しい監視 VM に保持されているかどうかを確認します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# cd /etc/exhibitor/  
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al  
total 8  
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .  
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..  
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties  
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties
```

シンボリック リンクが使用できない場合は、次のコマンドを実行します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties exhibitor.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s /usr/share/exhibitor/log4j.properties
log4j.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al
total 8
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties ->
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties ->
/usr/share/exhibitor/log4j.properties
```

**ステップ 8** 次のコマンドを実行して、`service exhibitor` を起動します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# service exhibitor start
exhibitor start/running, process <ID>
```

---